

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和4年3月1日（火）14時00分から15時30分まで
参加者	委員16名、関係機関10名
場所	北部協働センター ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 萩丘中、葵・高丘地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①前回の振り返り 生活支援コーディネーターより、第1回協議体会議の振り返りを行った。</p> <p>②認知症についての相談事例について 葵・高丘地区民生委員児童委員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高丘地区における認知症高齢者の徘徊事例について紹介。家族が目を離した隙に自宅からいなくなってしまった。近所や母親の墓地近辺を探していたが見つからず、家族は最初、近隣住民に認知症だと知られたくないと話をしてしたが、警察に届け出た。その後、約11km離れた町で通報により見つかった。 ・オレンジシールの登録をしていないという高齢者だった為、民生委員からオレンジシールをすすめ、登録してもらった。 ・今後も民生委員児童委員としてオレンジシールを推進し、認知症高齢者声掛け訓練等にも協力していきたい。 <p>市社協 CSW より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の信用金庫より、何度も通帳から引き落としをし認知症が疑われる事例について紹介。地域包括が訪問をしたところ、ゴミ屋敷状態となっていることが判明。CSWも介入し本人が自身でゴミ捨てを出来るような支援を進めていった。本人も徐々に関係機関を受け入れはじめ、本格的な支援につながった。 ・数年前に妻を亡くし、その後徐々にゴミが溜まっていった様子。人間関係が希薄となっていた為に、発見が遅れたのではないかと。 ・本人の支援には市社協や地域包括、行政以外にも地域住民の関わりはとても重要。 <p>地域包括支援センター高丘より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性アルツハイマー型認知症の本人とその家族の支援に関する事例。近隣住民からゴミ出しのトラブルに関する連絡があり、介護認定等をケアマネと地域包括で行った。これまで、本人は近隣住民の認知症への理解があまり無かった為トラブルにつながったり、家族も周囲の人に頼ることが出来ないと介護がつらいと感じたりしてしまっていた。その為、地域住民と本人について情報共有を行い、地域住民から散歩に出かけたら挨拶をする、見守りをするなど様々な提案をいただいた。結果、本人の望む自宅での生活を行う事ができた。 ・地域住民に情報共有を行ったことにより、地域にしかできないことを地域住民が提案してくれた。 ・地域の方が本人を理解したことにより、本人らしく暮らすことが出来た。また、デイサービスの利用が出来るようになったことにより、家族の負担も減る事となった。

	<p>③認知症高齢者声掛け訓練 デモンストレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声掛け役 浜松市社協 ・認知症高齢者役&声掛けチェック 包括高丘 ・シナリオ 夫婦で二人暮らしをしている。うとうと、うたたねをしていたが、ふと目を覚ますと知らないところにいる気がした。(自宅なのに)自分の生まれた(何十年前に住んでいた)奥山に帰ろうと家を出てしまったが、ここはどこなのか、ここには自分がどうやって来たのかもわからなくなってしまった。 ・7つの対応のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・まずは見守る ・余裕をもって対応をする ・声をかける時は一人で ・後ろから声をかけない ・相手の目線に合わせて「やさしい」口調で ・おだやかに、はっきりとしたはなし方で ・相手の言葉に耳を傾けゆっくりと対応する <p>④他地区における認知症に関する事例について</p> <p>市社協浜松地区センターより、他地区における認知症に関する事例について紹介を行った。</p> <p>3. 事務連絡 来年度も萩丘中、葵・高丘地区生活支援体制づくり協議体を開催予定。</p> <p>4. その他 特になし。</p> <p>5. 閉会 萩丘中、葵・高丘地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
今後の見通し等	<p>今回、認知症高齢者に関する事例や認知症高齢者声掛け訓練デモンストレーションを行い、認知症に関する理解をより深めた。今後は具体的な取り組みについて検討していきたい。</p>